



茨城県の経済情勢報告

令和5年1月31日
財務省関東財務局水戸財務事務所

本件に関するお問い合わせ先

水戸財務事務所財務課

電話 029-221-3180

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡

（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

一部に供給面での制約の影響がみられるものの、個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直している。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
生産活動	一部に供給面での制約がみられるものの、持ち直している	一部に供給面での制約がみられるものの、持ち直している	➡
雇用情勢	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	➡
設備投資	4年度は増加見込みとなっている	4年度は増加見込みとなっている	➡
企業収益	4年度は減益見込みとなっている	4年度は減益見込みとなっている	➡
企業の景況感	「下降」超幅が拡大している	「上昇」超に転じている	↗
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	↘
公共事業	前年を上回っている	前年を下回っている	↘

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

家電販売額、ホームセンター販売額は前年を下回っているものの、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額は前年を上回っている。また、乗用車の新車登録届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車いずれも前年を上回っており、全体として前年を上回っている。このほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直している。

このように個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 感染症に対する警戒感が薄れ、全国旅行支援が始まったことも要因となって、消費者の外出機会が増えていることが後押しし、来店客数が上昇している。(百貨店・スーパー)
- 人流の回復に伴い、売上は好調に推移している。たばこ、コーヒーなど、ちょっと立ち寄って購入するような商品が好調となっている。(コンビニエンスストア)
- 受注状況は順調であるが、長納期化が継続していることから業況は横ばい。足下では受注残が積みあがっており、生産が追い付けば売上は十分に見込める状況となっている。(自動車販売)
- 物価上昇に伴う消費マインドの低下などから、特にテレビの売上が前年を下回っているほか、関東地方では暖かい日が続いたことから、西日本などに比べてエアコンなどの暖房器具の売上が弱かった。(家電量販店)
- 人手不足から需要を拾い切れていないものの、足下の売上はコロナ前と比較して9割程度まで戻ってきている。特に個人客の多い年末年始の売上はコロナ前と同程度となっている。(宿泊)
- 10~12月については、コロナ禍以前と比較すると70~75%程度の売上で推移している。8月頃は感染者が増えた影響で売上が若干落ちたが、秋以降は持ち直してきた。(飲食サービス)
- 秋以降、「道の駅」の利用者数がコロナ前の水準にかなり近付いているほか、旅館の客室稼働率や飲食店のランチ需要が順調となるなど、全国旅行支援の効果を実感している。ただし、夜の宴会需要は引き続き少ない状況となっている。(業界団体)

■ 生産活動 「一部に供給面での制約がみられるものの、持ち直している」

生産を業種別にみると、食料品などが減少しているが、電気機械などが増加しており、一部に供給面での制約がみられるものの、持ち直している。

- 部品不足の影響は継続しているものの改善傾向にある。受注が好調であることに変化は無いが、部品不足の影響が最も大きかった前年同期と比べると生産量は倍増している。(電気機械)
- 北米・欧州などで建設需要が旺盛であることにより増産基調が続いており、生産水準はコロナ前を上回っている。(生産用機械)
- 部品不足の影響によりOA機器の入れ替え需要に応えられていない状況が続いていたが、部品不足も徐々に解消しつつあることから生産を増やしているうえ、バックオーダーもまだ残っている。(業務用機械)
- 中国のインフラ工事が減少傾向にあることで在庫が増えつつあるものの、国内需要には大きな変化が無いことから、今のところフル生産を継続している。(化学)
- 10月に実施した値上げ前の買いだめの反動により、消費者の酒類購入量が減少していることや、宴会需要の低迷に伴う外食の需要低下の影響が大きく、生産量が減少している。(食料品)

■ 雇用情勢 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

雇用保険受給者実人員は減少しているが、有効求人倍率は概ね横ばいで推移しているなど、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

- 業況が上向いており、高速バスや観光バスの稼働が増えているため、運転手を中心に若干の不足感が出てきている。(運輸)
- エネルギー価格高騰などの影響を受けていることから、コスト削減のために人員計画を見直している。(製造業)

■ 設備投資 「4年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 4年度の設備投資計画は、製造業では前年比4.1%の増加見込み、非製造業では同15.7%の増加見込みとなっており、全産業では同8.5%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「4年度は減益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 4年度の経常利益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)は、製造業では前年比67.1%の減益見込み、非製造業では同2.5%の減益見込みとなっており、全体では同39.5%の減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超に転じている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 企業の景況判断BSIは、前四半期(4年7~9月期)に比べ、「上昇」超に転じている。先行きについては、5年1~3月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、貸家が前年を上回っているものの、分譲住宅及び持家が前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

- 住宅ローン金利の上昇や販売価格高騰を見越した駆け込み需要は、現時点ではみられていないものの、今後近いうちに発生するとみている。(住宅建設)

■ 公共事業 「前年を下回っている」

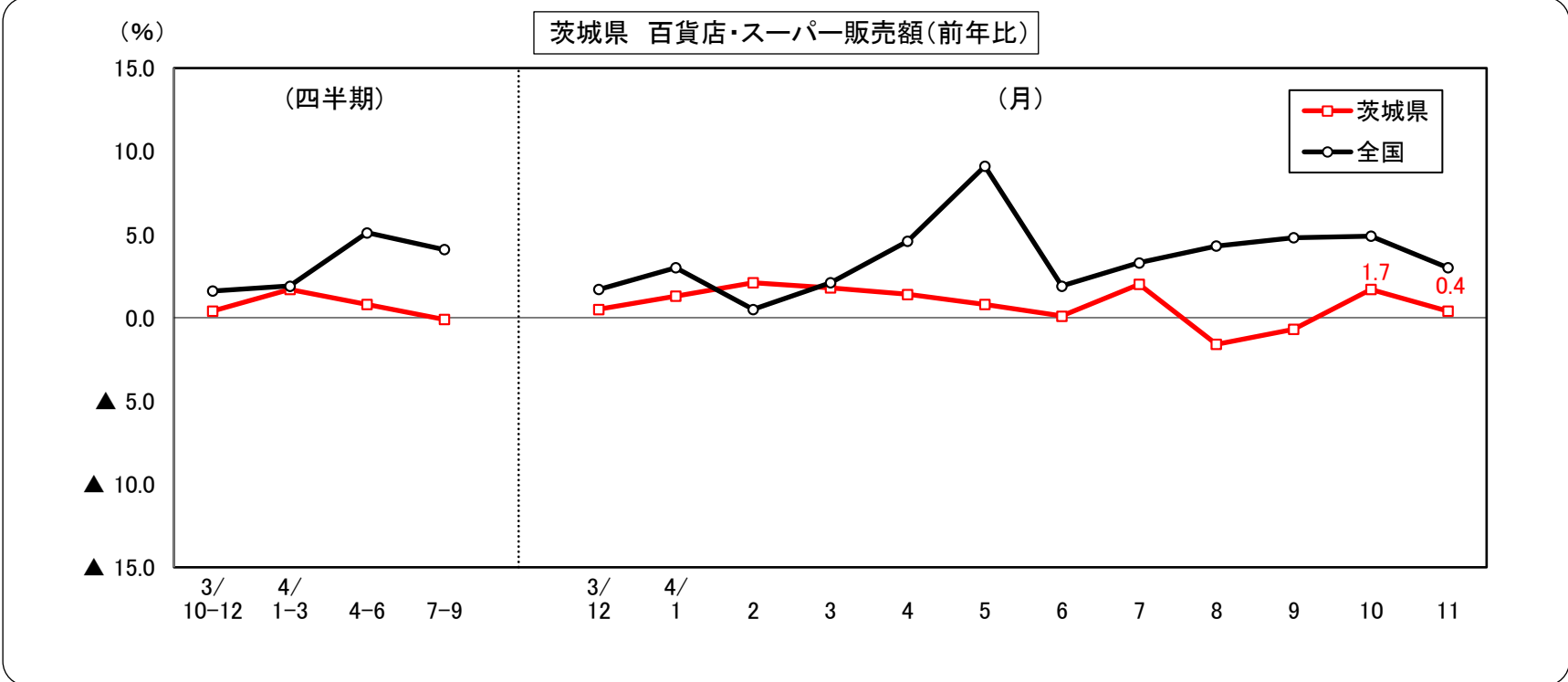
- 前払金保証請負金額をみると、前年を下回っている。

茨城県の経済情勢報告

資料編

1. 個人消費

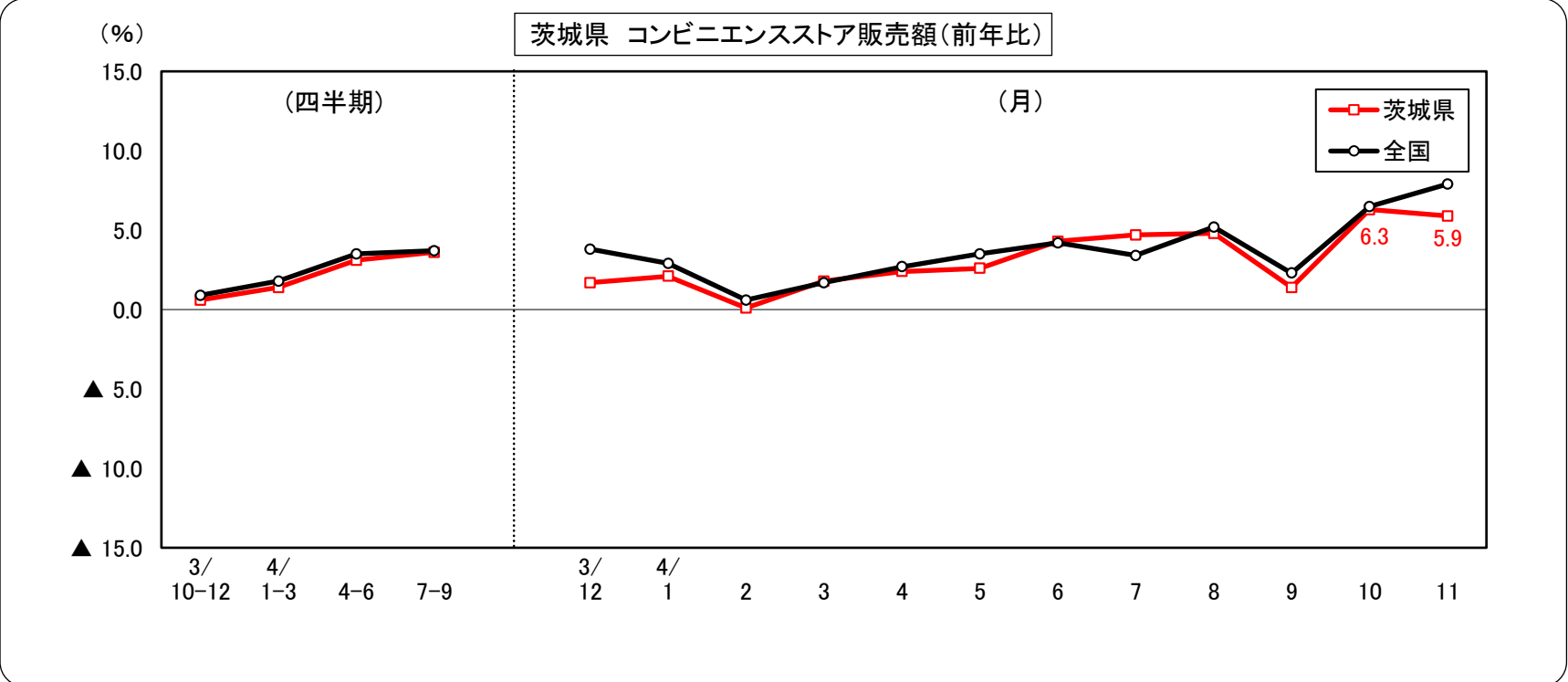
「グラフ1」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

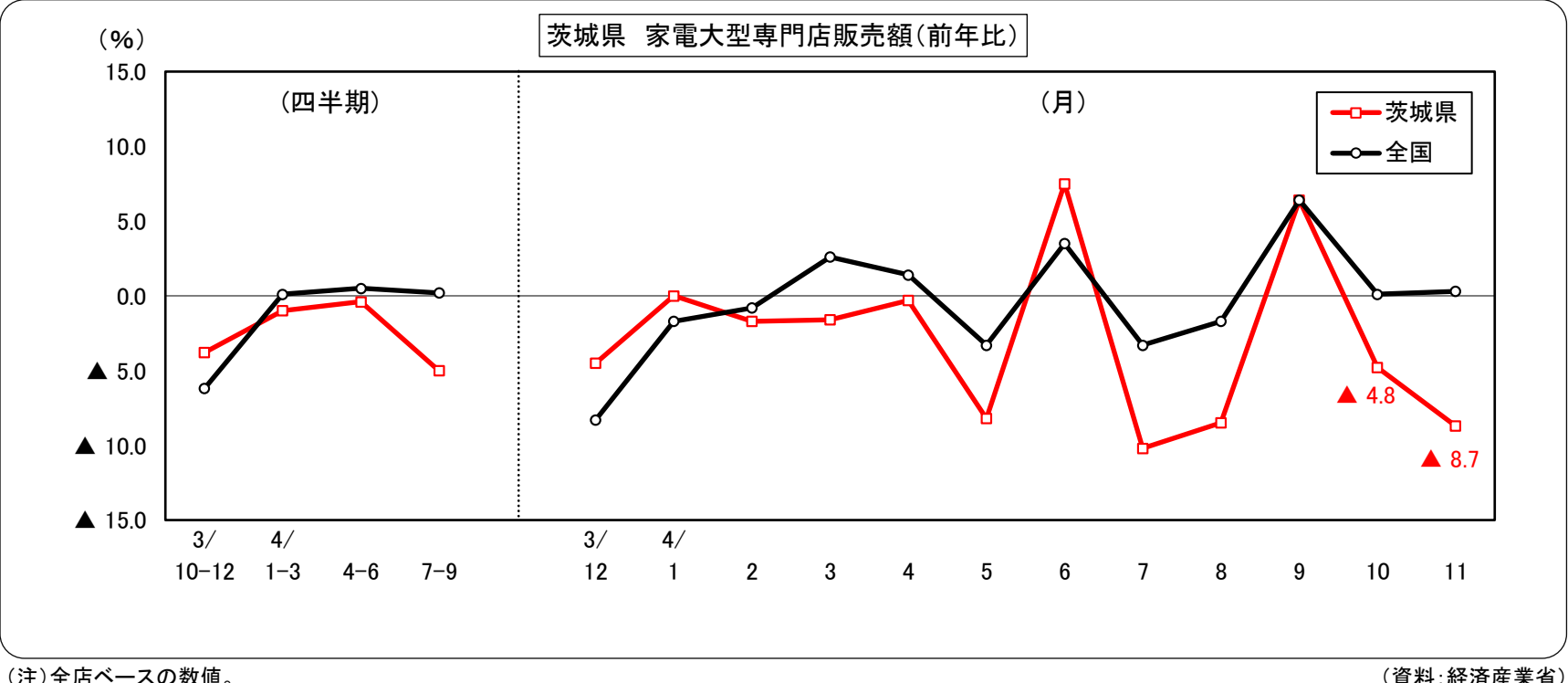
「グラフ2」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

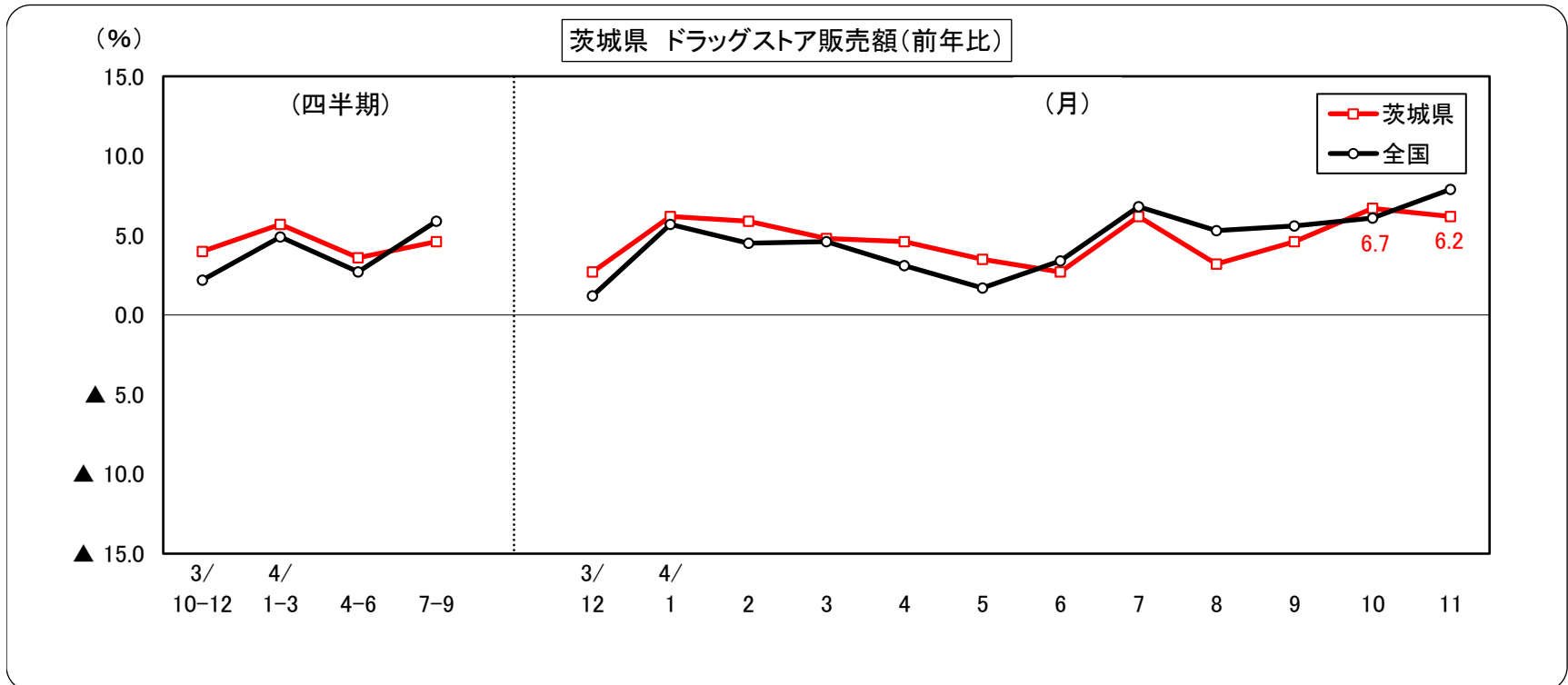
「グラフ3」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

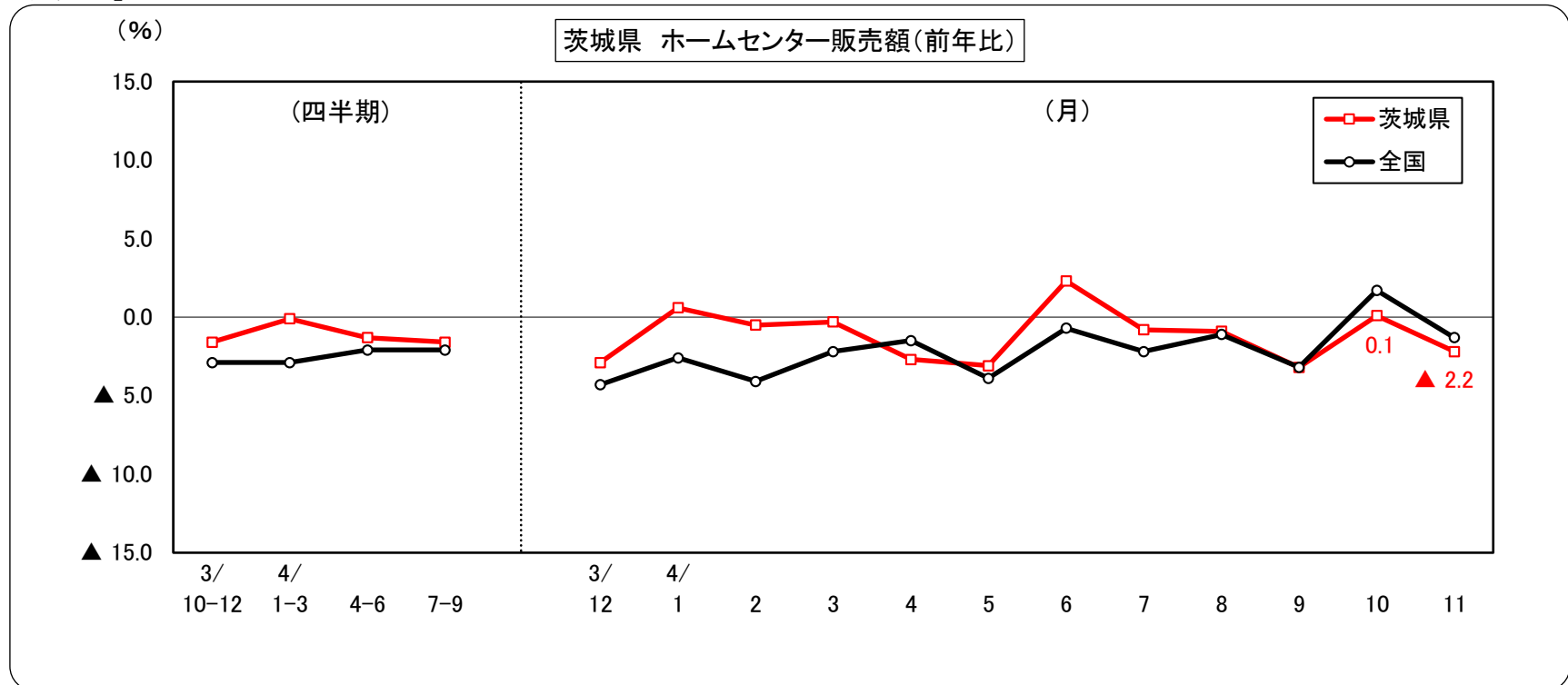
「グラフ4」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

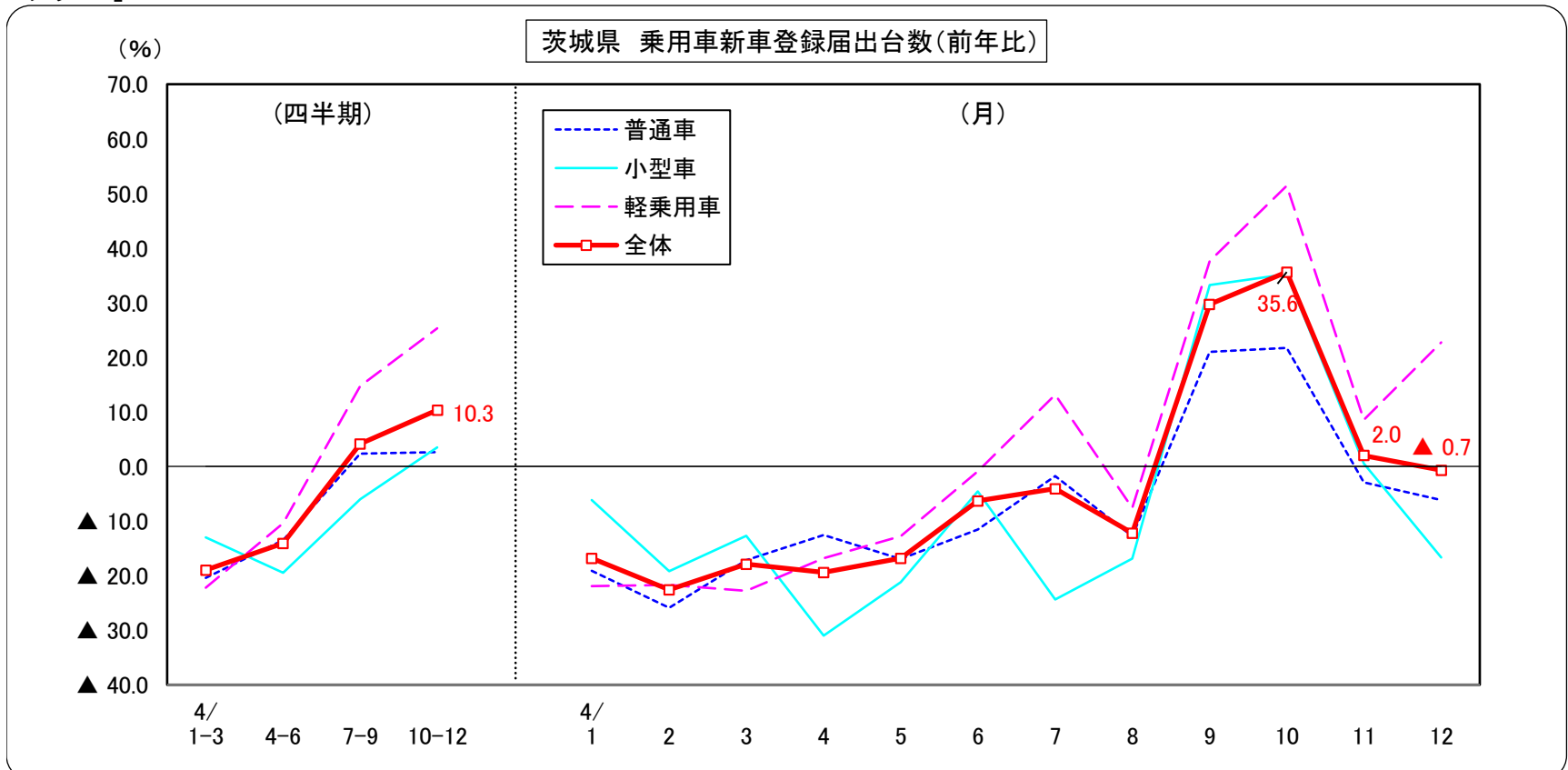
「グラフ5」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

「グラフ6」

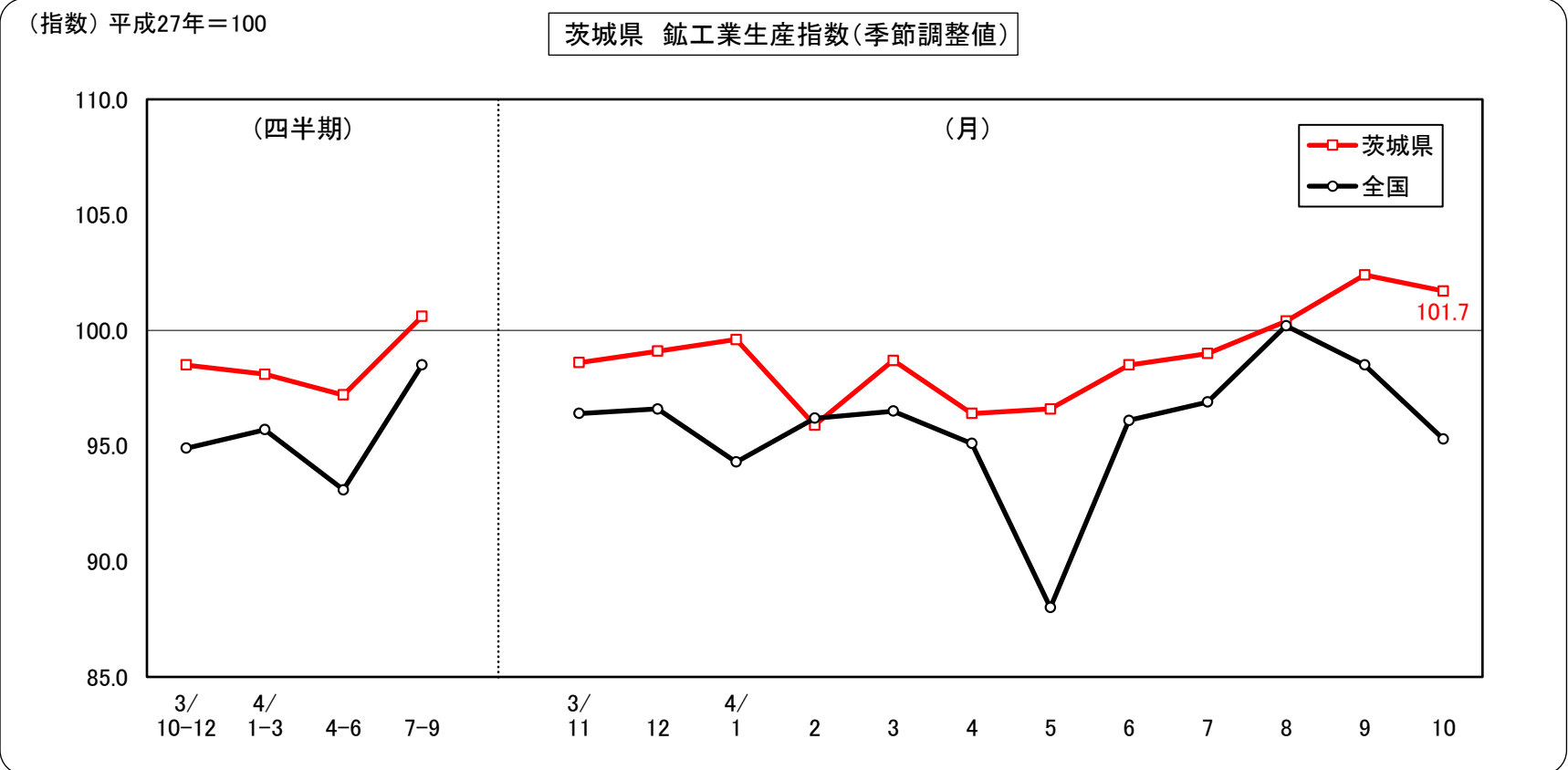


(注)乗用車新車登録届出数は、ナンバーベースで普通車・小型車・軽乗用車の合計。

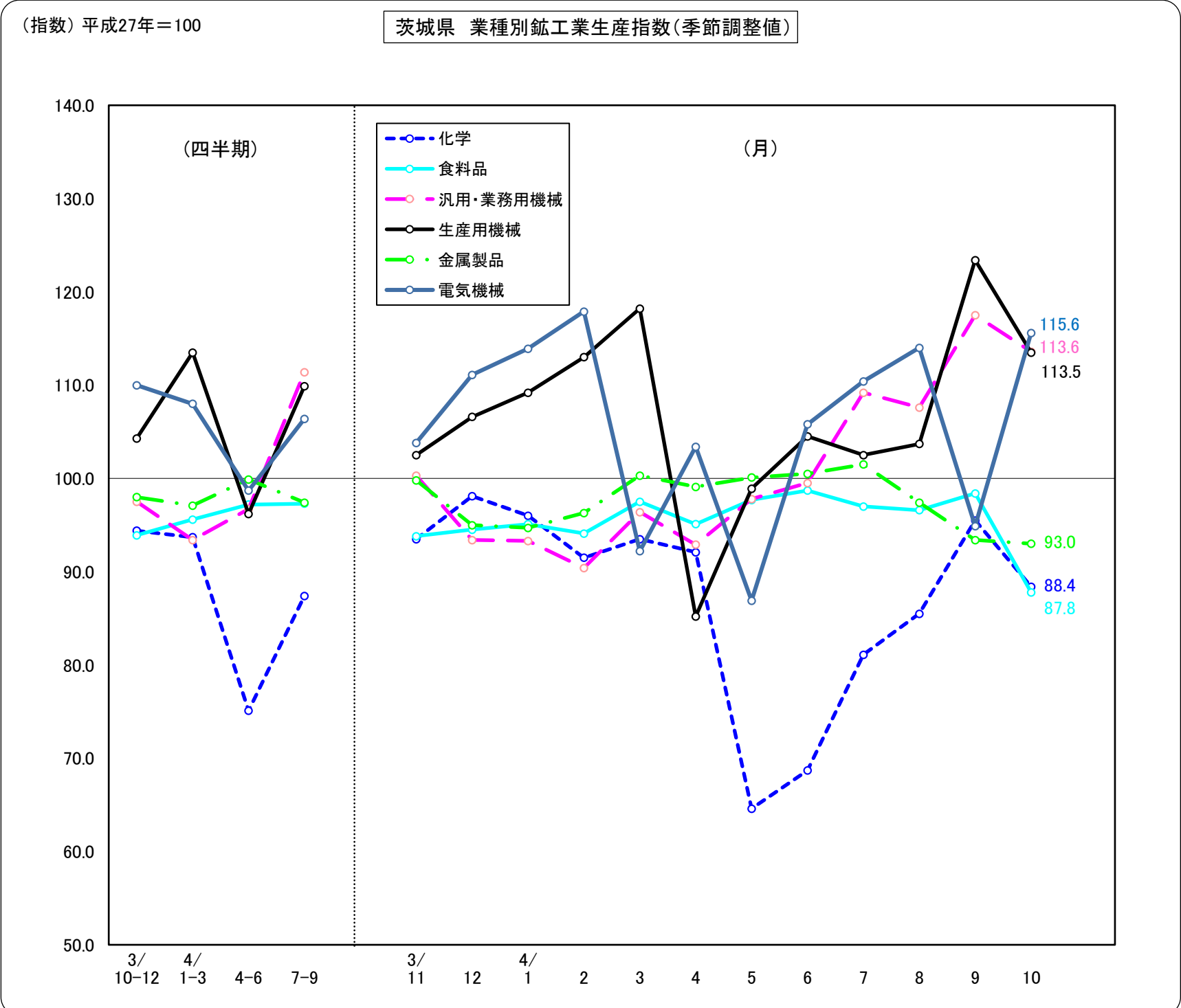
(資料:日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会)

2. 生産活動

「グラフ7」

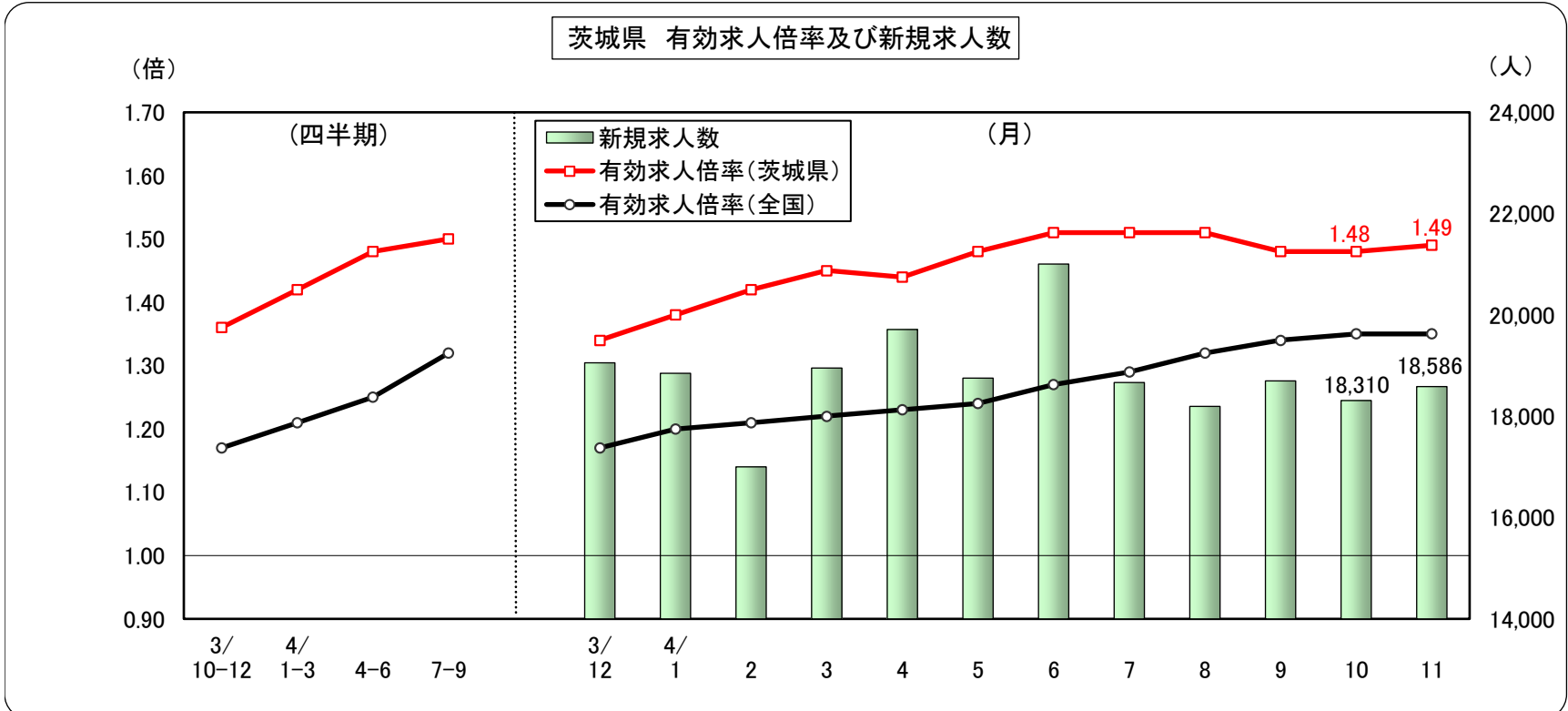


「グラフ8」



3. 雇用情勢

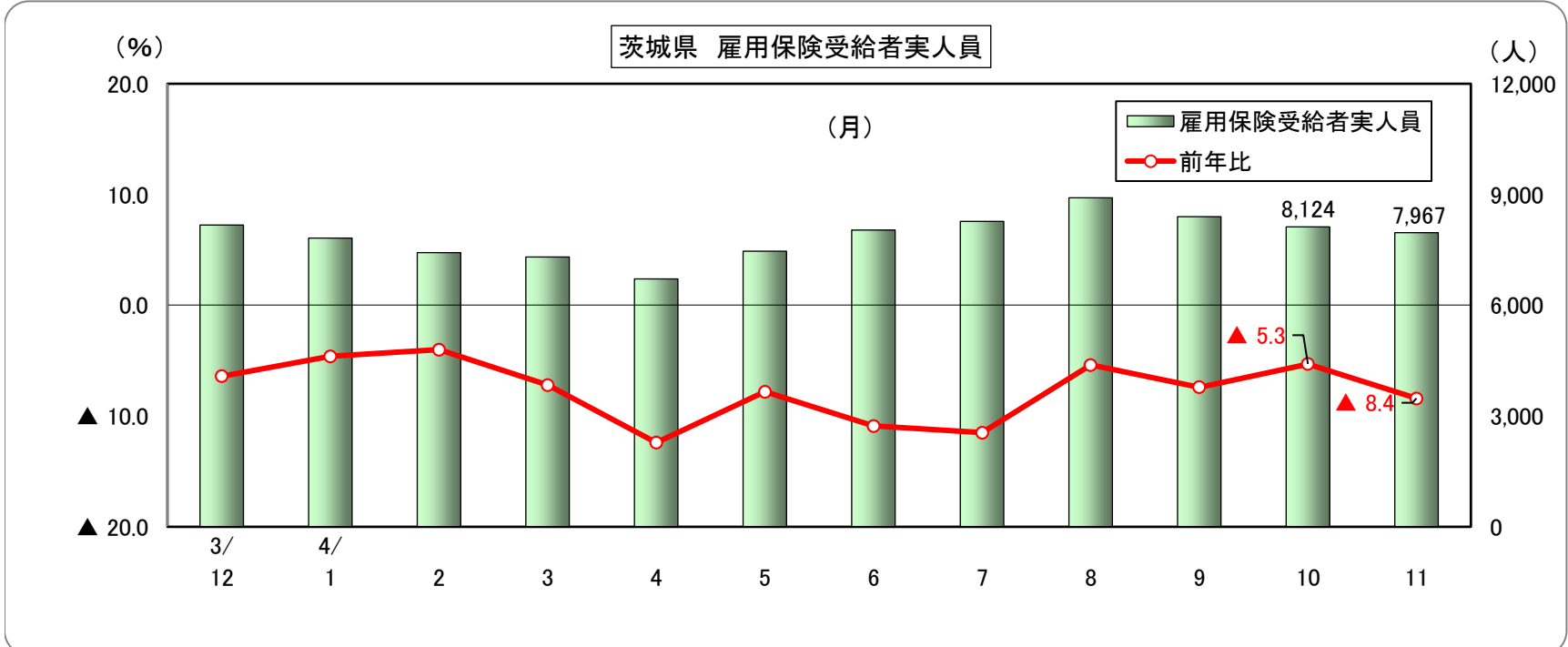
「グラフ9」



(注)パートタイムを含む季節調整値。

(資料:厚生労働省、茨城労働局)

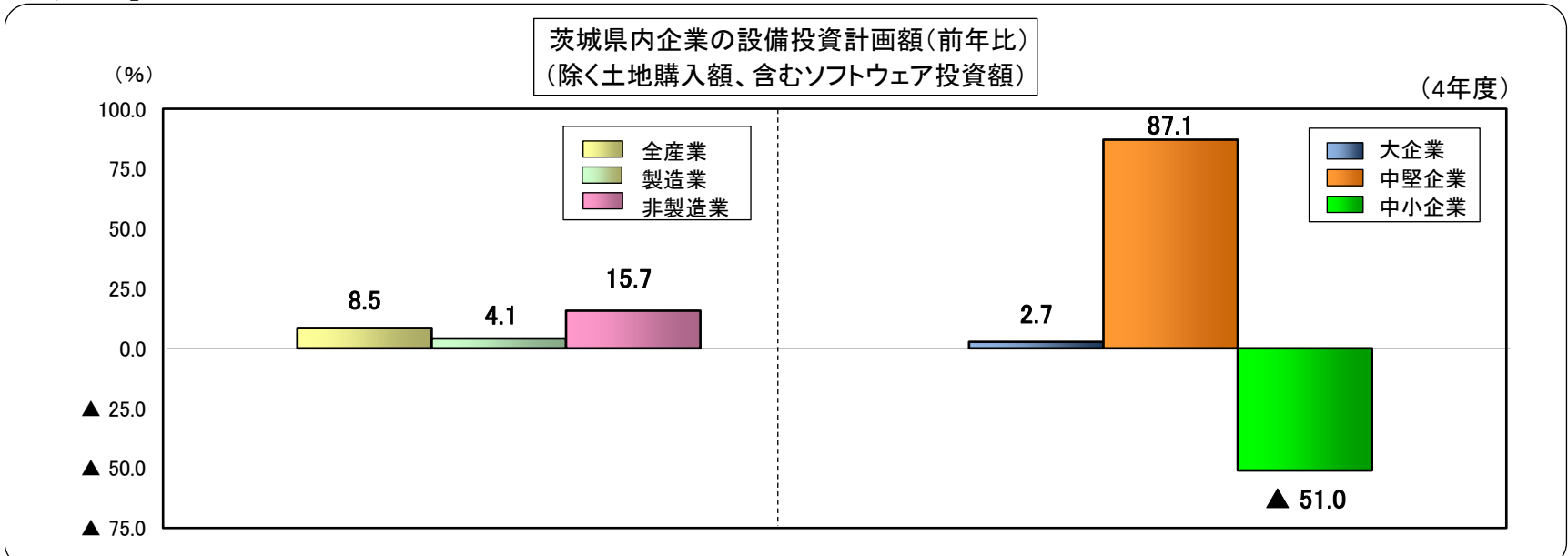
「グラフ10」



(資料:茨城労働局)

4. 設備投資

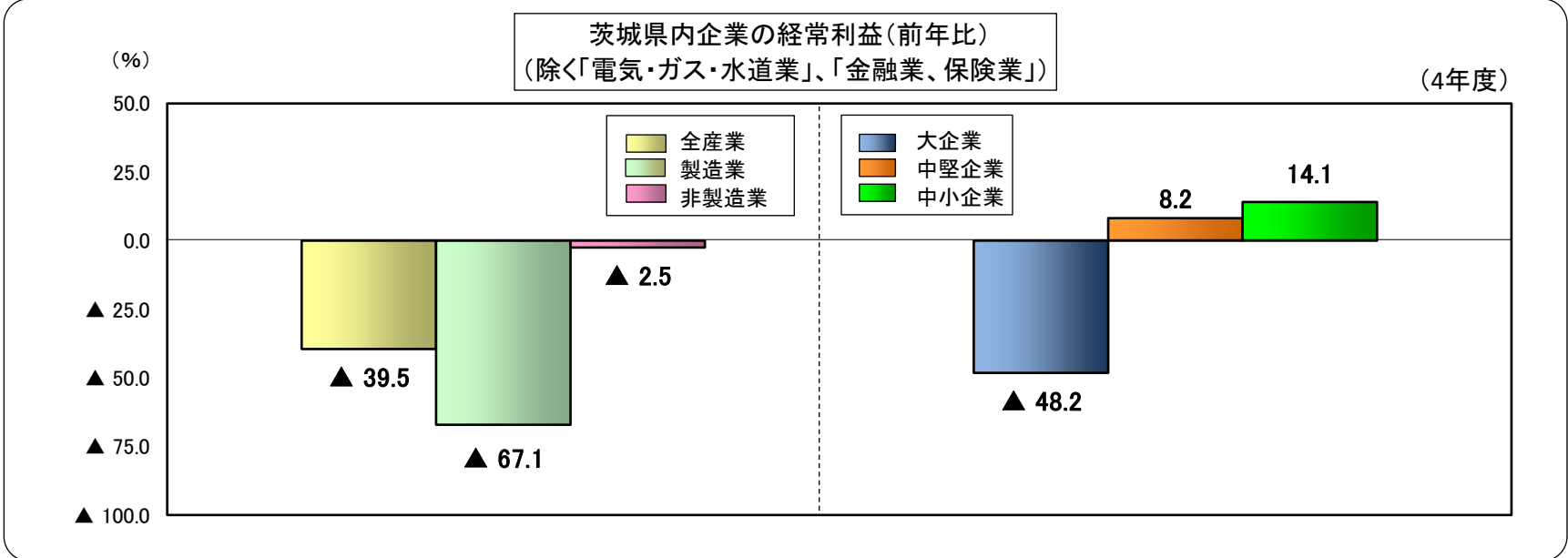
「グラフ11」



(資料:水戸財務事務所「法人企業景気予測調査(令和4年10-12月期調査)」)

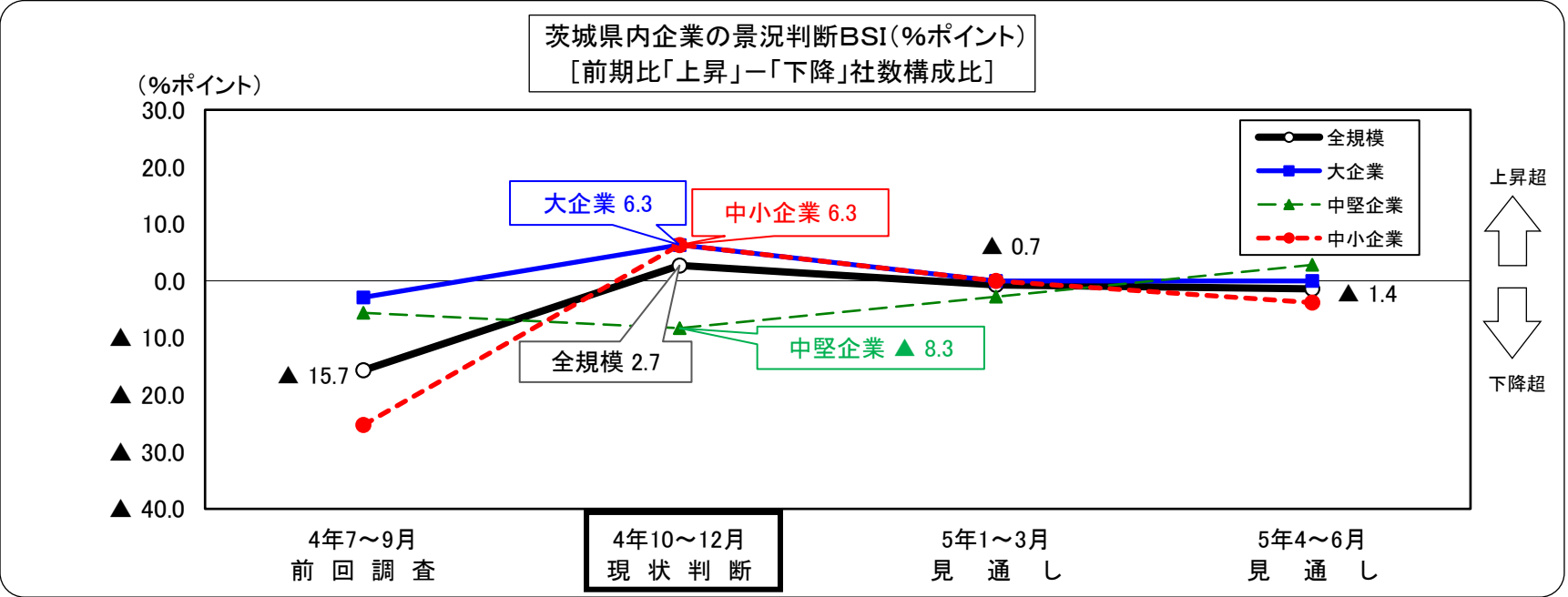
5. 企業収益

「グラフ12」



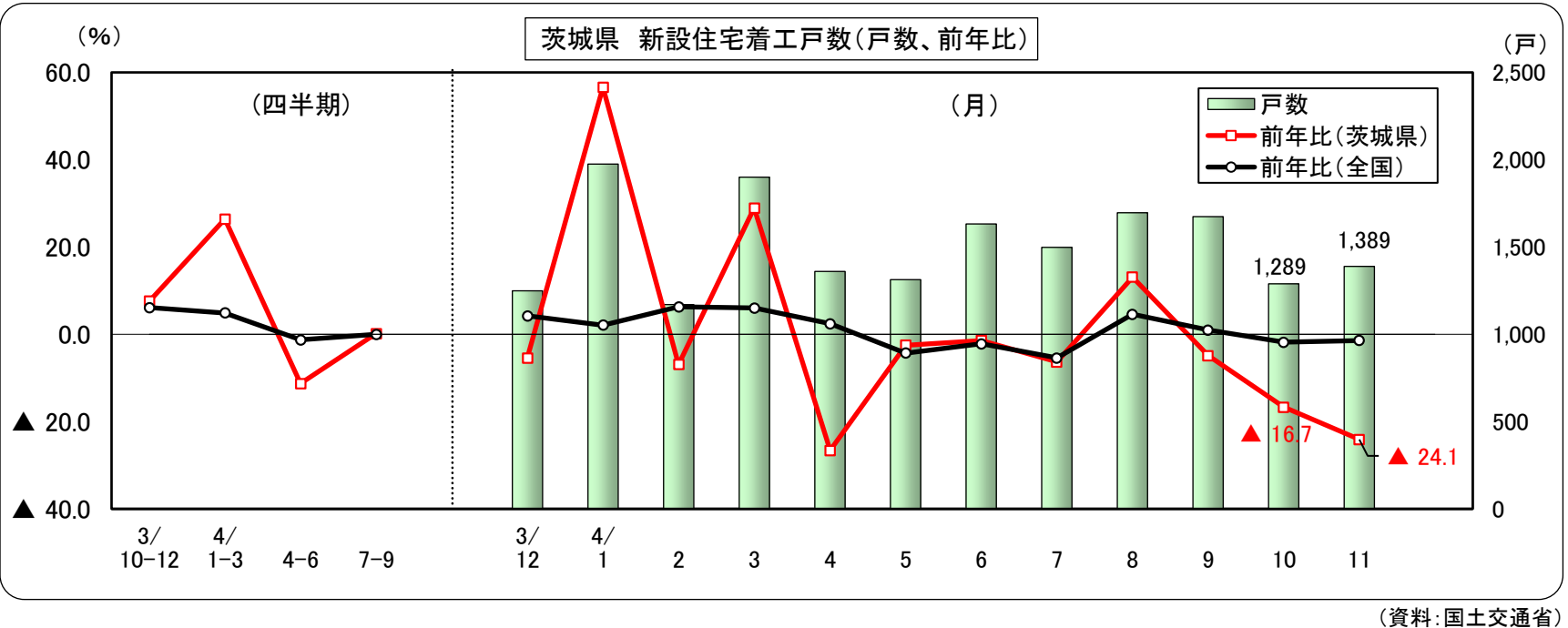
6. 景況感

「グラフ13」

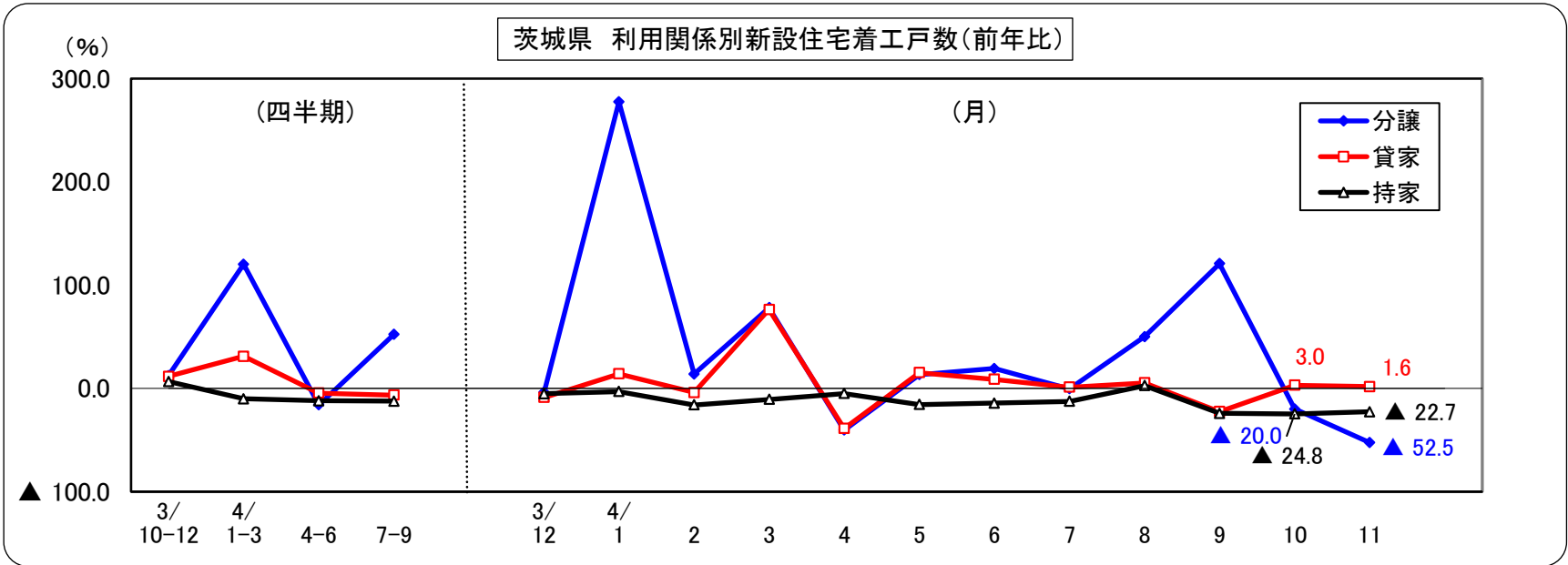


7. 住宅建設

「グラフ14」

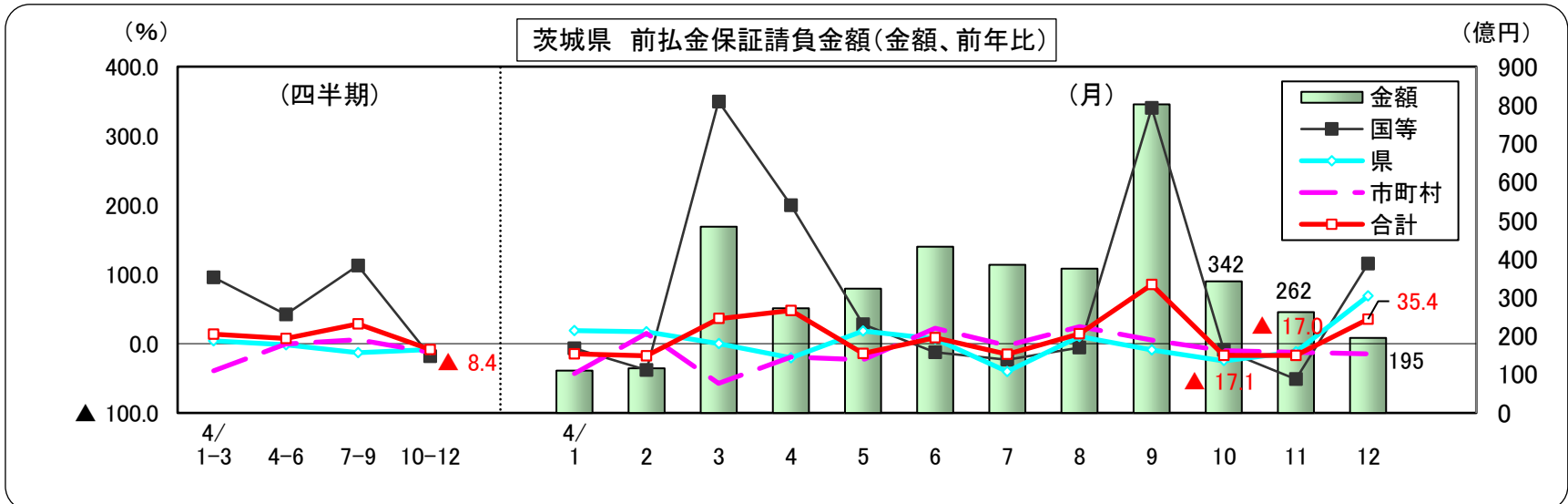


「グラフ15」



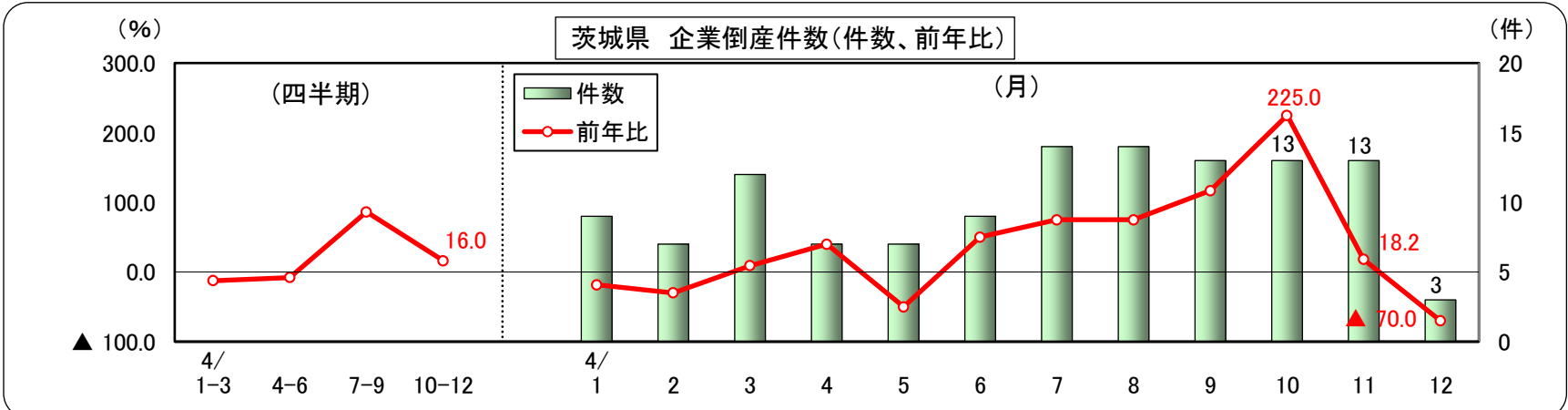
8. 公共事業

「グラフ16」



9. 企業倒産

「グラフ17」



「グラフ18」

